

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

1 調査検討すべき事項とその内容 ①

(1) 地域特性の把握・調査

- ・人口分布やライフラインの状況など基礎データの収集、整理、分析 ②
- ・立地適正化計画などの上位計画の調査・確認
- ・市街地内の避難路、避難場所、延焼遮断帯など防災上の観点からの評価 ③

- ① 問題は、「説明せよ」なので、文章による説明が基本と考えます。よって、箇条書きは避けた方が良いでしょう。
- ② 「市街地整備等の課題や災害発生の可能性等を把握、整理するため」といった理由を添えると良いでしょう。
- ③ ここは、調査・検討事項を書くところなので、評価との表現は問いに対する的確な回答と言えません。

(2) 想定される被害の分布、規模の分析

- ・地域の災害履歴の確認，整理
- ・シミュレーション ④ による被災状況・規模分析 ⑤
- ・復興時における市街地整備等の課題分析 ⑤

- ④ →「シミュレーション」
- ⑤ ③と同様、分析ではなく調査・検討項目を述べましょう。

(2) 復興まちづくりの目標・実施方針の設定

- ・復興における将来像や市街地の復旧方針の策定 ⑦

- ⑥ 調査・検討項目を述べましょう。手順で書くべき内容ですね

令和 年度 技術士第二次試験答案用紙

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

(3) 目標の実現に向けた課題整理

- ・ 災害時に混乱を⑦生じないよう体制や手順に関する
ことをあらかじめ策定する⑧

⑦ →「が」

⑧ 調査・検討項目を述べましょう。手順で書くべき内容ですね。箇条書きならば、体言止めが基本です。少なくとも表現は統一しましょう（以下同様）。

2 業務を進める手順⑨

(1) 現状把握のための調査・分析

- ・ 位置，種別，状況⑩を調査，整理する。
- ・ 地区の抱える課題について抽出する。
- ・ 復興する区域（上位計画や関連計画における位置づけを考慮した区域）の検討を行う。⑪

⑨ (5)を除いた項目に留意点、工夫点がありません。すべての項目に必要という訳ではありませんが、少なすぎます。

⑩ 何の位置、種別、状況なのでしょうか。

(2) 想定される被害の検討

- ・ 地区における災害履歴や公表されているハザードマップから復興の前提となる被害を想定する。

⑪ 見出しと不整合です。

(3) 目標・方針の決定

- ・ 対象地域におけるまちづくりの目標を設定する。⑫
- ・ 目標達成に向けた施策を検討する。⑬

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

- ⑫ 方針がありません。
- ⑬ 施策の検討は、別項目だと考えます。

(4) 問題の分析 ⑭

- ・ 復旧・復興の手順や復興優先事項を検討する。 ⑮
- ・ 復興する際の ⑯ 適用する 整備手法 ⑰ や 利用可能な地域資源 ⑱ の検討
- ・ 復旧復興 ⑲ の実施体制や各主体の役割分担の検討

- ⑭ 問題の分析があって、目標や方針が定まるものと考えます。順番がおかしいです。
- ⑮ この検討事項は、見出しにある問題の分析ではありません。他の項目も同様。
- ⑯ →「に」
- ⑰ 抽象的です。何の整備か不明です。
- ⑱ 復興に利用可能な資源とは、どのようなものなのでしょうか。説明不足です。
- ⑲ 復興復旧という表現が様々あります（復旧・復興、復興）。統一しましょう。

(5) 対策立案 ⑳

- ・ 復興手順を検討する。検討にあたり、住民の生活再建意向を考慮するなど、住民の意向に留意する。
- ・ 復興事前復興計画 ㉑ を策定する。適宜見直しを行うよう PDCA サイクルを展開できるよう留意する ㉒。

- ⑳ 記載内容で見出しが合っていない（対策立案に関する記述がない）。
- ㉑ 復興事前準備計画の誤記ですかね。誤記であるなら、そもそも、この計画を策定する手順を書くべきであるにもかかわらず、手順にその計画を策定するとは、一体どういうことなのでしょうか。
- ㉒ PDCA は留意事項ではなく、計画の中に位置づけるべき項目ではありませんか。

○解答欄の記入は、1マスにつき1文字とすること。なお、英字・数字は1マスに2文字を目安とする。

3 関係者との調整方策

(1) 検討委員会

住民や関係機関との復興方針²³の合意形成を図るため、住民、学識経験者及び防災アドバイザー²⁴などで²⁴検討委員会を行政が設置し、検討・策定を行う。²⁵

- ²³ なぜ方針だけなのですか。
- ²⁴ 「・・・などで構成された」
- ²⁵ 合意形成に、検討委員会がふさわしい理由を書きましょう。そうでないと、目的を達成できる手段なのか判断できません。

(2) ワークショップ²⁶

地元のまちづくり組織の場を活用し、復興まちづくりに関する意識啓発（復興シユミレーションや部会活動）や復興事前準備をすることの効果の見える化を通じて地元住民の理解を深め、業務の効果を高める²⁷。また、防災意識の向上を図るため、住民参加でのハザードマップやタイムラインの作成を行う²⁸。以上

- ²⁶ 記載のどれがワークショップなのですか。ワークショップという記述がないので、理解できません。
- ²⁷ 文が長すぎます。まちづくり組織が存在していることが前提なのですか？「啓発や準備することの効果」との表現は理解できません。意識啓発の効果が見える化して住民の理解を深めるとはどのようなことですか。手段と目的が同じに見えます。さらに、業務の効果を高めるとありますが、業務とは何を指すのでしょうか（計画策定業務にも見えますし、復興業務にも見えます）。
- ²⁸ 前段と同じ内容ではありませんか。